

第 32 回北九州大腿骨近位部骨折地域連携パス協議会議事録

日時：2021 年 10 月 2 日（土） 15:30～15:40

場所：ZOOM 開催

出席医療機関（別紙参照）

報告事項（事務局 村上より）

1. 大腿骨近位部骨折地域連携パス北九州標準モデルの利用状況

令和 3 年 9 月 15 日までに事務局へ送信され受理した連携シートについて報告した。急性期医療機関は 319 件/5 ヶ月、回復期等連携医療機関は 341 件/5 ヶ月であり、運用開始から急性期医療機関、回復期等連携医療機関の両施設より受理した患者数は 3678 名、合計 7384 名の利用となった。

・集計結果（全受理データ）

急性期医療機関、回復期等連携医療機関ごとの事務局の受理件数、事務局への未送信件数を示し、未送信分に関しては送信していただくよう呼びかけた。加えて全受理データを用いて、年代別利用状況、骨折型別発症割合について報告した（ホームページ上の集計結果を参照）。

2. 大腿骨近位部骨折における身体機能評価の検討

・大腿骨近位部骨折地域連携パス北九州標準モデルが 2011 年 8 月から導入され、約 10 年が過ぎ、さまざまな報告を行ってきたが、その中で問題となるのが身体機能評価であり、今回 2021 年にアメリカ理学療法士協会が報告した大腿骨近位部骨折のガイドライン（Physical Therapy Management of Older Adults With Hip Fracture）を中心に身体機能を含む検討をした。

・検査項目のまとめとして、身体機能では筋力、疼痛の評価が重要視され、移動能力では歩行補助具の記載や評価法を病期において検討が必要であった。また ADL は、急性期では特に起立・移乗動作の評価が重要であった。

・大腿骨地域連携パス北九州標準モデルのパスシート（急性期）では、ADL・移動においてはガイドラインが推奨する内容と類似した評価法が導入されていたが、筋力や疼痛の評価指標が不足しており、発表の最後に 5 回の立ち上がり時間の評価を紹介した。

3. その他

- ・今回北九州大腿骨近位部骨折地域連携パス協議会に関する参加証の発行について案内した。
- ・異動等で委員が不在の病院は、委員変更届を提出するようお願いした。
- ・当該病院のアルファベットに関しては、事務局まで問い合わせをお願いした。

ご意見やご要望の連絡先

北九州市八幡西区医生ヶ丘 1-1 産業医科大学リハビリテーション医学講座

担当職員：杉保聖子、担当医：伊藤英明

Fax 093-691-3529

E-mail: reha@mbx.med.uoeh-u.ac.jp

文責 村上 武史、伊藤 英明

北九州大腿骨近位部骨折地域連携パス協議会事務局幹事

産業医科大学リハビリテーション医学講座 Tel 093-691-7266

出席医療機関：

九州労災病院
製鉄記念八幡病院
新小文字病院
正和中央病院
北九州八幡東病院
戸畑リハビリテーション病院
浅木病院
慈恵曽根病院
香椎丘リハビリテーション病院

産業医科大学病院
JCHO九州病院
福岡新水巻病院
大手町リハビリテーション病院
小倉リハビリテーション病院
北九州安部山公園病院
小倉きふね病院
新中間病院

北九州総合病院
新小倉病院
戸畑共立病院
遠賀中間医師会おかがき病院
正和なみき病院
芳野病院
北九州中央病院
新生会病院